

# 農地の環境問題やわしく説く

## 「メダカが田んぼに帰った日」

## ライター金丸さん出版

唐津出身

唐津市出身のフリーライター金丸弘美さん(四九)が今月下旬、国内各地の農村を取材して書いた「メダカが田んぼに帰った日」(学研、一二〇〇

円)を出版する。機械化する前の素朴な農法で米作りに取り組んだ結果、絶滅の危機にひんしているメダカが田んぼに戻ってきた話などを通して、農業や自然環境の問題を

考える内容になってい

をまとめた。特に力を入れて紹介したのが「不耕起栽培」という農法。

これは、温室で栽培し

苗を自然の気候の中で育て、耕さない田にそれを

た苗を田植えする現代の一般的な農法と違って、

首都圏

トピックス

程度大きくなるまで育て、耕さない田にそれを



7年間で200カ所の農村を取材した金丸さん

植え付ける農法で、農薬や化学肥料を使わない。そこに、メダカやドジョウ、ハクチョウなどさまざまな生き物が戻ってきた例を紹介している。

農地改革や、農薬、化学肥料を用いる現代農法の問題点も指摘しているが、専門用語は極力使わ

ず、中学生にも理解できるように平易な文章でつづっている。

金丸さんは「豊かな自然環境を取り戻すには発想を変えることが必要です。子どもたちが環境問題に関心を持つきっかけになってほしい」と話している。